

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	看護学概論	担当講師	坂本真由美
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

本科目は看護の主要概念—「人間とは」「社会・環境とは」「健康とは」「看護とは」を理解し、先達の研究の積み重ねによる看護理論をもとに看護の本質の理解をめざす看護学を学ぶ上での導入部である。

本校の教育理念である「その人に寄り添うこころ」を育むために、まず本科目で看護の対象である人間理解と人を大切に思える気持ち—権利擁護について考え、看護が人間の生活とどのように結びついてきたかを深く考えるための素材とする。また、変化する社会のニーズに対応できる看護専門職となるためには、最近の厳しい医療現場の現実をふまえながらも看護の本質を見失わないことが重要である。社会における看護の位置づけと役割を明確にし、看護そのものの価値をもつことが看護専門職者としてのアドンティイを形成することに繋がる。このように、本科目では「看護」を学びつつ看護者としての成長の第一歩とする。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
8	1. 看護の概念を理解できる	1) 看護の本質	(1) 看護とは 看護の変遷 「看護覚え書」からわかったこと 看護のイメージ (2) 看護の定義 法律上の看護の定義 職能団体による看護の定義 看護学におけるメパラダム 理論家にみる看護の定義 F.ナインゲール、V.ヘンダーソン 主な看護理論 ニート論、人間関係論 適応理論、セルフケア理論 (3) 現代の動向と今後の展望	講義 グループワーク
4	2. 看護の役割と機能が理解できる	1) 看護ケア 2) 看護実践と質の保証 3) 看護の役割 機能拡大 4) 看護の継続と情報共有	(1) 看護におけるケア、キュア、コア (1) 個別的看護 (2) 質の保証に欠かせない要件 (1) 疾病構造の変化と看護への影響 (2) 看護活動の地域への広がり (1) 入院時の情報 (2) 多職種チームとの継続的関わり	講義 グループワーク
4	3. 看護の対象としての人間が理解できる	1) 人間の「こころ」と「からだ」	(1) ホメオスタシス (2) ストレス反応・コーピング理論 (3) 人間の欲求・危機理論 (4) 生涯発達と健康 (5) 人間の「暮らし」、看護の対象としての家族	講義 グループワーク
2		2) 健康のとらえ方	(1) 健康の定義 (2) 権利としての健康	

4	4. 看護の提供者と看護活動の場について理解できる	1) 職業としての看護 2) 看護職者の種類と役割 2) 看護サービス提供の場としくみ	(3) 健康指標の変化 (1) 看護のはじまり (2) 看護の確立 (3) 看護の充実 (4) 職業としての看護の新たな展開 (1) 保健師助産師看護師法における看護職の定義と役割 －看護師・助産師・保健師 准看護師・看護助手 (1) 医療施設における看護 地域における看護 継続看護－場をつなぐ (2) 看護サービス提供のしくみ (3) チーム医療とその条件	講義 グループワーク
2	5. 看護職者としての社会的責任を理解できる	1) 医療安全と医療の質保証 2) 看護職の法と規定	(1) 看護業務の特性と医療事故 (2) 医療安全における看護者責任 (3) 保健師助産師看護師法 (1) 看護職の教育制度と就業状況 (2) 看護職者の教育とキャリア開発	講義
2	6. 看護における倫理について理解できる	3) 看護職者の倫理	(1) 職業倫理としての看護倫理 (2) 対象者の権利擁護 (3) 看護倫理をめぐる取り組み ICN 看護師の倫理綱領 看護者の倫理綱領(日本看護協会)	講義
2	7. 看護の課題を理解し、社会が看護に期待していることがわかる	1) 看護の使命 2) 看護の教育への提言 3) 看護研究	(1) 現代社会における看護の使命 と今後期待されること－経済不況と健康への関心、医療専門職のあり方過疎化・高齢化社会 (2) 看護の学び方－看護実践力の教育のあり方	講義 グループワーク
2	試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 F. ナイチングール著 湯槻ます 他訳 看護覚え書 現代社 V. ヘンダーソン著 湯槻ます 他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 手島恵監修 看護者の基本的責務－定義・概念/基本法/倫理 2021年版 日本看護協会出版会 ナーシング・キャンパス 2021 学研メディカル秀潤社			
参考文献	城ヶ端初子監修 実践に生かす看護理論 19 医学芸術社 田畠邦治他編 哲学－看護と人間に向かう哲学 ヌーヴェルヒロカワ 時実利彦著 人間であること 岩波新書 G124 田村やよひ編集 看護学基礎テキスト第3巻 社会の中の看護 日本看護協会出版会 国民衛生の動向・厚生の指標 一般財団法人厚生労働統計協会 看護六法 2021年度版 新日本法規			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	基本的看護技術 I 「人間関係形成と学習支援の技術」	担当講師	坂本真由美 杉垣ひとみ
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

人間同士が互いに意志の疎通をはかって信頼関係をもつには、コミュニケーションが必要なことは誰もが知っている。しかも、健康不健康を問わずあらゆる発達段階にある人々を対象にする看護において、コミュニケーションがいかに重要で難しいかは看護職を目指してはじめて気づく。相手との関係が築けなければ看護援助は成立しない。そこで本科目ではまず、人としてのコミュニケーションの基本から関係形成までのプロセスを学び、そのうえで看護者としての効果的なコミュニケーション技術の習得をめざす。

さらに、看護における学習支援の重要性を学び、相互の関係形成理論と教育学に裏付けされた知識・技術を基礎にして、健康上の課題をもつ対象者への学習支援方法の基本を学ぶ。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. コミュニケーションの特徴と医療におけるコミュニケーションが理解できる	1) コミュニケーションの意義と目的	(1) コミュニケーションとは (2) 双方向的な相互作用を生むコミュニケーション (3) 人間のコミュニケーションの特徴 (4) 医療におけるコミュニケーションの重要性	講義 演習
2	2. コミュニケーションの構成要素と成立過程が理解できる	1) コミュニケーションの手段 2) 構成要素と成立過程	(1) メッセージの表現装置としての手段 (2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 (3) ミスコミュニケーション	講義 演習
2	3. 看護における相互作用と役割について理解できる。	1) 看護における援助的人間関係	(1) プの原点：援助は人間関係のプロセスそのもの (2) 対話的関係	講義 演習
4	4. 看護専門職者としての振り返りについて理解できる。	1) リフレクション 2) プロセスコード	(1) 看護におけるリフレクションとは (2) リフレクション学習のサイクル (3) リフレクション学習に必修のスキル (4) 経験の分析・評価・説明 (1) プロセスコードの目的 (2) 場面を再構成する上で重要なこと (3) プロセスコードの記述・分析・評価	講義 演習 講義 演習
2	5. 関係構築のためのコミュニケーションの基本が理解できる	1) 接近的行動と非接近的行動 2) 言語的コミュニケーション 3) 非言語的コミュニケーション	(1) 接近的コミュニケーションの原理 (2) 接近的行動と非接近的行動の具体例 (3) 患者に寄り添う態度とは (4) 非言語的メッセージの重要性と活用	講義 ロールプレイ
2	6. 効果的なコミュニケーションの実際を理解し、活用できる	1) 傾聴 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブな	(1) 看護における傾聴 (2) 聴くための条件 (3) 共感的理解・受容的態度 (4) 聴き方 (1) 適切な質問 (2) クローズドクエスチョンとオープンエンドクエスチョン (1) わかりやすく説明するための条件 (1) アサーティブ行動の獲得 (2) 送り手を理解し、メッセージの内容を具体化し伝達方法を工夫する	講義 演習
2	7. コミュニケーションに障害がある人への対応が理解できる	1) コミュニケーションの障害と身体機能	(1) 失語症のある人への対応 (2) 構音障害のある人への対応 (3) 伝音・感音・神経伝達に問題のある人	講義 演習

			への対応 (4) 認知症のある人への対応 (5) 意識障害のある人への対応 (1) 臨地実習場面をリフレクション思考を活用して振り返る (2) 臨地実習場面を「ペルコード」で再構成し振り返る 「人間関係形成の技術」筆記試験	
4	8. 対象者との人間関係形成のプロセスを振り返ることができる。 <試験>	1) リフレクションの実際 2) 「ペルコード」の活用の実際	(1) 臨地実習場面をリフレクション思考を活用して振り返る (2) 臨地実習場面を「ペルコード」で再構成し振り返る 「人間関係形成の技術」筆記試験	演習 演習
1	9. 看護における学習支援の意義及び目的と学習支援の考え方を理解できる	1) 学習支援とは 2) 学習支援の基本となる考え方	(1) ベンダーランの「患者の学習を助ける」 (2) 看護における学習支援とその発展 (3) 看護における学習支援の役割 (4) さまざまな場で行われる学習支援 ・ 健康に生きることを支える学習支援 ・ 健康戦略の変遷と様々な場における健康支援 ・ 健康状態の変化に伴う学習支援 (5) 個人への学習支援と集団への学習支援	講義
2	10. 学習支援のベース、とアセスメントの視点が理解できる。	1) 学習支援の基盤 2) 学習支援アセスメント	(1) 人間関係形成への取組み (2) 対象と共に歩む (3) わかりやすさの原理 (4) できる自信に向けた取り組み 一歩一歩での技術習得 (5) 学習支援過程 (1) 対象者の学習準備状態のアセスメント (2) 学習すべき知識と行動 (3) 対象者のサポート力	講義 演習
2	11. 学習支援計画、実践における評価の必要性と評価方法が理解できる	1) 学習支援計画 2) 学習支援評価	(1) 学習支援計画により目標を共有し解決に向かう方策 (2) 学習支援評価の必要性と評価方法	講義 演習
2	12. 対象者の学習準備状態のアセスメントが具体的になる	1) 学習支援におけるアセスメントの実際 2) 話を聞くとは	(1) 学習支援におけるアセスメントの実際 (2) 話を聞くとは 演習：話を聞く 「学習支援の技術」筆記試験	講義 演習
1	<試験>			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 竹尾恵子編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術ブレイクス 第4版 学研メディカル秀潤社 時実利彦著 人間であること 岩波新書 ナーシング・キャンパス 2021 学研メディカル秀潤社			
参考文献	V.ベンダーラン著 湯檻ます・小玉香津子訳、 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 大森武子他著 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版株式会社			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	基本的看護技術 II 「対象把握の技術」	担当講師	小谷和大 杉垣ひとみ・小椋貴文
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

看護は生きた身体と生きた心と、心身一体の感情とに働きかける実践である。人間への理性的で心のこもった、しかも科学の裏付けをもった視点を持たなければ「何を援助するか」は見えてこない。看護職の役割として、まず、その人の健康状態の見極めから始まる。「おや?」という段階から、病気が疑われれば病理的状態をよく把握し、心理・精神的状態と日常生活への影響を把握することが必要である。この結果は医師の診断過程や治療の選択にも重要な情報となる。本科目では、まず生命徵候としての呼吸・循環・体温の仕組みを理解し、それらの観察・測定技術を習得する。さらに、病理的状態、心理的状態、生活機能を評価・査定できるフィジカル・アセスメントの基本的知識と、問診・視診・触診・聴診の技術を習得することをねらいとし、講義と演習をもって授業を進める。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる	1) 看護には何故観察が必要か 2) ヘルスアセスメント	(1) ヘルスアセスメントとは —看護の対象への関心の持ち方 (2) ヘルスアセスメントの目的 (3) ヘルスアセスメントに必要な技術と その実際 一バイタルサイン測定 (4) 観察・記録・報告・自己評価	講義
2	2. フィジカルアセスメントについて理解できる	1) フィジカルアセスメントの概念 2) 器官・系統別のアセスメント	(1) フィジカルアセスメントとは —ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性 —看護師の五感／全体を概観する (2) フィジカルアセスメントに必要な技術	講義 演習
10	3. バイタルサインの概念と意味することを理解する 4. バイタルサインの観察技術とバイタルサインのアセスメントが理解できる	1) バイタルサイン測定は何のために行うか 2) 体温の観察とアセスメント 2) 脈拍の観察とアセスメント 3) 呼吸の観察とアセスメント 4) 血圧の観察とアセスメント 5) 意識観察とアセスメント 6) 看護師に求められる実践能力の5要素	(1) バイタルサインとは何か (2) バイタルサインの意味するもの (1) 体温とは何か (2) 体温の生理、異常と随伴症状 (3) 体温測定法と体温測定時の留意点 (1) 体循環系と肺循環系 (2) 脈拍とは (3) 脈拍の生理、脈拍の異常と随伴症状 (4) 脈拍の測定と観察と観察時の留意点 (1) 呼吸の生理 (2) 呼吸の生理、異常と随伴症状 (3) 呼吸の測定と観察 (4) 呼吸の測定と観察時の留意点 (1) 血圧とは何か (2) 血圧の生理、異常と随伴症状 (3) 血圧測定法と血圧測定時の留意点 ①触診法 ②聴診法 (1) 意識とは (2) 意識の観察、評価方法と実際 (1) 対象者を尊重した態度 (2) プライバシーの保護及び説明と同意 (3) 人的・物的環境評価・調整	講義 演習 グループワーク 講義 演習 グループワーク 講義 演習 グループワーク

2	5. フィジカルアセスメントの基本技術とアセスメントが理解できる	1) フィジカルアセスメントの基本的技術 2) 身体計測の方法 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 4) 頭頸部のフィジカルアセスメント 5) 消化器系のフィジカルアセスメント 6) 運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメント	(4) 必要物品の準備と後片付け (5) 原則に従った技術の展開 (1) フィジカルアセスメントに必要な技術 (1) 身体計測とは・身体計測の目的と適応 (2) 測定評価の基準 (3) 身長・体重・身体の周囲径(胸囲・腹囲)測定、筋力スクリーニング、関節可動域測定 (4) 身体各部の測定の実際 (1) 胸部における「場所」 (2) 胸郭と肺の位置関係 (3) チアノーゼと拍打状指 (4) 触診・視診・聴診と呼吸音の評価 (5) 正確な呼吸音の聴診と評価 (1) 眼・鼻・耳・口腔の機能と 12 対の脳神経 一感覚器の機能 (2) 観察の実際 一口腔周囲の観察 食物摂取の観察 咽頭反射の観察 腹部のフィジカルアセスメントの留意点 視診・聴診と腸蠕動音の評価 打診・触診 (1) ADL / 步行状態の観察 (2) 筋力(MMT)測定 (3) 意識状態の評価と呼吸パターンの確認 (4) 瞳孔及び対光反射 (5) 股関節の ROM 測定・MMT 測定	講義 演習 演習 講義 演習 モデル使用 講義 演習 モデル使用 講義 演習
2	技術確認試験		バイタルサイン測定技術確認 筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 菱沼典子著 第4版 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進② 医学書院 竹尾恵子編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 看護がみえる vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア F・ナイチングール著 湯槻ます・薄井坦子他訳 看護覚え書 現代社 V.ヘンダーソン著 湯槻他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 小寺豊彦著 楽しく学ぶ 看護につながる解剖生理 照林社			
参考文献	時実利彦著 人間であること 岩波新書 川島みどり編 触れる・癒やす・あいだをつなぐ手 TE-ARTE 学入門 看護の科学社			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術修得状況、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	基本的看護技術III 「医療・療養環境を整える技術」	担当講師	田中佳代子 杉垣ひとみ
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

人間は生まれ育った環境の自然的・社会的な条件の影響を受けながら、個性をもつ一人として自ら選んだ地域社会に参加していく。環境は人間にとって生存を脅かされず生き、生活することを保障されるものでなければならない。病床・療養環境においてはこの安全・安心=安楽こそが健康の回復・安寧に重要である。

本科目では人間の健康と環境の関わりを学び、基本的看護技術として対象者の安全・安楽の観点から、ベッド及びその周囲、さらに療養環境・医療環境全体の調整法を学ぶものである。そして、病床環境を気持ちよく整え、医療物品の一つひとつまで有害微生物・危険物を除去し、対象者を守るための技術習得をめざす。なお、「安全の技術」履修にあたっては関連する「微生物学」と並行して学ぶこと。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 環境について考え、環境と健康の相互作用、入院患者の環境が理解できる	1) 環境 2) 生活と健康 3) 環境・安全のニード 4) 療養環境	(1) 環境とは、外部環境と内部環境の相互作用 (2) 感染や危険から保護されるニードと環境 (3) 病室・病床の選択 (4) 空間の縮小と生活・心理面への影響	講義 グループ ワーク
2	2. 病室の環境のアセスメントと病床環境を整える目的・方法が理解できる	1) 快適な環境 2) 環境瀕鼻・ベッドメーキング・リネン交換の目的	(1) 室温湿度・光と音・色彩・空気の清浄性と臭気 (2) 人的環境・安全な環境 (3) 患者の自立を妨げない環境・清潔な環境 (4) 寝具(マットレスや枕)が適切な環境 (5) 環境整備・ベッドメーキング・リネン交換の目的	講義 グループ ワーク
2	3. ベッドメーキングの方法が理解できる	1) 基本的なベッドメーキングとリネン交換 2) ベッドメーキングの方法	(1) 援助における作業姿勢と作業域、作業面 (2) クローズドベッドとオープンベッドのつくり方	講義 (演習)
2	4. 一人で安全で安楽なベッドを作成できる	1) ベッドメーキングの実際	(1) 物的環境の評価・作業環境の調整 (2) シーツの伸ばし方・コーナーの作り方 (3) 布団の広げ方・枕カバーの掛け方 (4) ボディメカニクスを活用した技術 (5) 安全上しなければならないことの確認	演習
2	5. 環境整備の援助方法を理解して実施できる	1) 環境整備の方法と実際	(1) 対象者の準備・換気 (2) ベッドの清潔・ベッド周りの整理整頓 (3) 室温・湿度の調整・採光・臭気への配慮、プライバシーへの配慮 (4) 安全・安楽・自立を考えた援助	演習
2	6. 臥床中のベッドのリネン交換が実施できる	1) 臥床でのリネン交換の実際	(1) 敷きシーツ、防水シーツ、枕・布団カバーの交換 (2) 安全・安楽・自立を考慮した体位変換の援助をしながらのリネン交換	演習
2	7. 環境を整える援助の必要性が理解できる	1) 環境調整の意義	(1) 援助における行為の根拠 (2) 環境を整える援助の意義	講義

2	8. 療養生活の安全確保が理解できる	1) 安全を阻害する因子と医療安全対策	(1) 安全を阻害する因子と対応 (2) 安全な医療サービスの為の基本的な考え方 (3) 転倒・転落事故防止、誤薬の防止、患者誤認防止、チューブ類の予定外抜去防止、薬剤・放射線の曝露防止	講義 グループワーク
2	9. 標準予防策(スタンダード・プロトコーション)と対策の実際が理解できる	1) 感染成立の条件 2) 標準予防策(スタンダード・プロトコーション)の考え方と内容 3) 手指衛生	(1) 感染成立の条件と感染拡大防止の対応 (2) 標準予防策とは・標準予防策の追加適応 (3) 手指衛生・個人防護用具 (4) 使用した器具、リ넨、鋭利なものの取扱い (5) 環境対策・救急時の対応 (6) 患者配置・呼吸衛生	講義 グループワーク
2	10. 感染経路別予防策が理解できる	1) 感染経路別予防策 2) 個人防護用具	(1) 手指衛生と衛生的手洗いの方法 (2) 個人防御用具と感染経路別予防策	講義 (演習)
2	11. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識が理解できる	1) 洗浄 2) 滅菌と消毒	(1) 洗浄の基礎知識と対策方法 (2) 消毒と滅菌の基礎知識と対策方法 (3) 消毒薬・洗浄法と浸水法の実際	講義
2	12. 滅菌物の取扱いの基本と感染性廃棄物の取り扱いが理解できる	1) 滅菌物の取扱い 2) 感染性廃棄物の取り扱いの基本	(1) 無菌操作とは (2) 滅菌物取扱の基本と滅菌物の取り出し方 (3) 鉗子、鑷子の取り扱いと滅菌手袋の装着 (4) 感染性廃棄物の取扱いの基本	講義 (演習)
2	13. 標準予防策が実施できる	1) 標準予防策の実際	(1) 衛生的手洗い (2) 個人防護用具の装脱着 (3) 滅菌手袋の装脱着	演習
2	14. 無菌操作と感染性廃棄物の処理が実施できる	1) 無菌操作の基本 2) 感染性廃棄物の処理の実際	(1) 看護者の清潔な身づくろい (2) 作業環境の評価・調整、物品の準備・配置 (3) 滅菌パック、鉗子、鑷子、消毒綿球、万能瓶取り扱い上の無菌的操作 (4) 安全上やつてはいけないことの自覚・自己評価	演習
2	試験		筆記試験・技術確認	
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術II 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 V.ヘンダーソン著 湯檜他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 竹尾恵子編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 ナーシング・キャンパス 2021 学研メディカル秀潤社			
参考文献	F.ナイチンゲール著 湯檜他訳, F.ナイチンゲール著 看護覚え書 現代社 系統看護学講座 専門基礎 微生物学 医学書院 系統看護学講座 専門II 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 平田雅子 ベッドサイドを科学する一看護に活かす物理学 学研メディカル秀潤社			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術修得状況、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	看護実践過程	担当講師	坂本真由美
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

看護は「対象者の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復及び苦痛の緩和を行い、生涯を通して、その人らしく生を全うすることができるよう身体的、社会的、精神的に支援することを目的としている。」このような看護を具体的に実践するための方法論の一つが看護過程である。

本科目では、対象に最もふさわしい看護を意図的・系統的に、かつ科学的・効果的に行うために、その手段・方法の基盤となる考え方を V.ハダーツの看護の理論を基に学ぶ。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 看護過程の必要性、考え方方が理解できる	1) 看護過程の構成要素 2) 看護過程の基盤となる力 3) 対象理解	(1) 看護過程とは (2) 看護理論と看護過程 (3) クリティカルシンキングと問題解決思考 (4) 看護実践の構成要素 (5) 看護過程の利点	講義 グループワーク
2	2. 情報の分析と解釈(アセメント)のための情報収集と整理が理解できる	1) アセメント 2) 情報の種類 3) データベースアセメント	(1) 主観的情報と客観的情報 (2) 客観的情報の読み取り方 一バタウイン値・身体計測値・臨床検査値 (3) ハダーツの 14 の基本的ニーズに基づく 枠組みでデータベースアセメント ①基本的欲求の状態 ②基本的欲求を変容させる病理的状態 ③基本的欲求に影響を及ぼす常在条件	講義 グループワーク
2	3. 「その人」の「重点的に考える」焦点アセメントが理解できる	1) ニードの充足・未充足	(1) 「体力」「意思力」「知識」—どこが欠如し、ニードが未充足状態なのか (2) その人の持てる力の維持向上 (3) その人のニードが充足された状態(目標)	講義 グループワーク
2	4. 対象者の全体像をつかむための関連図が理解できる	1) 関連図の意義 2) 関連図の考え方 3) 全体像	(1) 関連図の意義；問題が明確になる (2) 関連図から明らかになること ①問題の原因(関連因子)誘因(危険因子) ②症状、徵候 ③強化したい強み ④問題の優先順位 (1) 立体像モデルと全体像	講義 グループワーク
2	5. 看護問題の明確化の過程が理解できる	1) 看護問題の種類 2) 問題の優先順位	(1) 実在・リスク・ヘルスプロモーション型の看護問題 (2) 問題の優先順位の決定—決定の根拠	講義 グループワーク
2	6. 対象者に期待される成果の明確化・看護計画立案が理解できる	1) 看護目標 2) 看護計画	(1) 期待される成果=即ち、看護目標 (2) 標準看護計画(スタンダード・ケアプラン) (3) 観察計画(O-P) (4) 直接ケア計画(T-P) (5) 教育・指導・情報提供計画(E-P)	講義 グループワーク

2	7. 援助の実施、及び実施後の評価と計画修正の過程が理解できる	1) 実施 2) 評価 3) リフレクション	(1) 実施過程を観察し、期待される成果・看護問題が解決に向かったかを記録、評価 (2) 評価することで、看護計画の修正 (3) 評価はスタートラインを引き直す段階	講義 グループワーク
2	8. 看護記録の目的と機能、看護記録の記載方法が理解できる	1) 看護記録 2) 記録の構成	(1) 記録の法的位置づけ (2) 看護記録の目的と機能 (3) 守秘義務違反と記録の改ざんは法的責任を負う (4) 看護記録の構成	講義 グループワーク
1	9. 試験		<筆記試験>看護過程の知識のまとめ	筆記試験
5	10. 紙上患者の「看護過程」が展開できる	1) 情報収集と情報の整理 2) ノートの充足度の判定	(1) 事例の把握 (2) 事例を把握するために必要な基礎的知識 (3) 病理的状態、基本的欲求の充足状態、常在条件が明確化 (4) 対象者の全体像の説明 (5) 情報整理しノートの充足度の判定	演習 個人ワーク
2		1) 焦点アセスメント	(1) 基本的欲求の充足・未充足の判定 (2) 未充足の原因・誘因を検討 (3) 必要としている援助の究明「体力」「意思力」「知識」の検討、強みを見出す (4) 分析解釈のまとめ（看護の方向性）＝ノートの充足した状態へのアプローチ	演習 個人ワーク
2		1) 関連図 2) 看護問題抽出 3) 看護計画	(1) 頭で描いていることを関連図で整理する (2) 関連図から看護問題抽出へ (3) 看護問題を明らかにして優先順位の決定 (4) 問題に対する期待される成果	講義 グループワーク
2		1) 計画の実施 2) 記録	(5) 看護計画の立案 (1) 計画を実施	演習
2		1) 評価	(2) 実施したこと、評価を記録用紙に記録 (1) 期待される成果の達成状況の判定、看護過程のプロセスの妥当性を評価	講義 演習
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 秋葉・江崎他著 第4版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 スーディル・ヒカリ			
参考文献	V.ヘンダーソン著 湯楨他訳、 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 井上智子他編集 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 第2版 医学書院 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版 学研メディカル秀潤社 看護科学研究会・看護教育研究グループ 患者理解への看護の視点 日本看護協会出版会 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 ナーシング・キャンバス 2021 学研メディカル秀潤社			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	日常生活援助技術 I 「食事と排泄」	担当講師	橋本みどり 田中 久美
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

好みの食事を準備し、必要な量だけそれを食し、食事という行為を楽しむことは、人間にとて基本的な欲求の一つである。また、生体の維持・成長にとって必要な栄養素をとり込み、社会の一員として食行動を身につけ自立することも食のニードの充足に繋がる。さらに、栄養素は消化・吸収・代謝を経て不要なものは代謝産物、老廃物として排泄される。排泄行動は通常、他人に見られることなく自力で行い、かつ快感を伴う行為である。その人の生活習慣や独自の方法がある。これらのこととふまえ、本科目では「食べること」「排泄すること」に関わる援助を学ぶ。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 食べることの意義と食べるという生活行動からみたからだが理解できる	1) からだのしくみと食のプロセス 2) 食事と栄養の意義	(1) 食事の認識から排泄までのプロセス (2) 生理的・心理的・社会的意義 (3) 消化吸収のメカニズム (4) 栄養素と消化	講義 グループワーク
2	2. 健康な食生活と栄養状態の評価が理解できる	1) 健康な食生活と食事摂取基準 2) 食事と栄養のアセスメント	(1) 食事バランスと栄養アセスメントの実際 (2) 栄養状態のアセスメント (3) 水分・電解質のアセスメント (4) 食欲のアセスメント (5) 摂食・嚥下能力のアセスメント (6) 摂食行動のアセスメント	講義 グループワーク
2	3. 食のニードと食事援助の基本が理解できる	1) 食事と栄養に影響する要因 2) 食のニード 3) 健康障害と食事	(1) 食行動に影響する要因 (2) ヘンダーソンのニード論 (3) 健康障害時の食事の意義・治療食、療養食	講義 グループワーク
4	4. 安全・安楽・自立を考慮した食事摂取の援助が実施できる	1) 食事摂取の自立困難な人への援助の実際	(1) 経口栄養の援助 (2) 咀嚼・嚥下障害のある人への援助 (3) 視覚障害のある人への援助 (4) 運動機能障害のある人への援助	講義 演習
2	5. 非経口的栄養摂取による食事を理解できる。	1) 非経口的栄養法 2) 食べることの尊厳	(1) 経管栄養が必要な対象者 (2) 経鼻経管法・瘻管法のしくみ (3) 経管栄養法を受けている対象者の観察と注入時の注意点 (4) 経口的・非経口的を問わず食べることの尊厳	講義
2	6. 排泄の意義とメカニズムが理解できる	1) 排泄のメカニズム 2) 排泄の意義	(1) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム (2) 排泄に影響する要因 (3) 排泄の意義と援助者に求められる基本的姿勢 (4) 排泄物の観察とアセスメント	講義 グループワーク
2	7. 自然排泄を促すための観察とアセスメントが理解できる	1) 排泄の観察とアセスメント	(5) 排泄行動の観察とアセスメント (6) 心理・社会的状態のアセスメント	講義

2	8. 自然排泄を促すための援助の方法が理解できる	1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助	(7) 自然排泄を促すための援助方法の選択と排泄設備・用具・用品、援助方法 (8) 床上での便器・尿器による援助方法	講義
2	9. 自然排泄を促すための援助が安全・安楽に実施できる	1) 尿器・便器による援助の実際	(9) 尿器・便器を使用する対象者の援助の実際 (10) 終了後の観察と排泄物の処理と用具の消毒	演習
2	10. 排尿障害時のアセスメントと援助方法を理解できる	1) 自然な排尿が困難な人への援助	(11) 排尿障害とは (12) 排尿障害のアセスメント (13) 排尿障害時の援助方法	講義
2	11. 排尿障害時の援助が安全・安楽に実施できる	1) 導尿の実際	(14) 導尿の準備・援助方法 (15) 終了後の観察と排泄物の処理及び使用器具の処置	演習
2	12. 排便困難時の援助方法とアセスメントが理解できる	1) 自然な排便が困難な人への援助	(16) 便秘のアセスメント (17) 便秘に対する援助方法 (18) 洗腸・摘便の目的、方法、留意点 (19) 下痢のアセスメント (20) 下痢に対する援助方法	講義
2	13. 排便困難時の援助が安全・安楽に実施できる	1) 洗腸の実際	(21) 洗腸の準備・援助方法 (22) 排泄後の観察と排泄物の処理と用具の消毒	演習
2	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術II 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 竹尾恵子編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 菱沼典子 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 日本看護協会出版会 小寺豊彦 楽しく学ぶ!看護につながる解剖生理 改訂版 昭林社			
参考文献	系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 V.ヘンダーソン著 湯瀬他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術の習得状況、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	日常生活援助技術II 「清潔と活動・休息」	担当講師	小椋 貴文 谷口 留充
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

人は本来、自分の意志のとおりに行きたいところに行き、目的に応じて身体を動かし必要があれば適度な休息や睡眠をとる能力を持っている。また、自分の身体や衣を清潔に保ち、自分らしく衣服を選択し身にまとい、好みの方法で整容する。しかし、病気や障害、治療上の制約によって、また、健康であっても加齢や幼弱であることでそれらの行動がとれない場合がある。本科目では、人間にとって運動すること・活動すること、休息すること、体をきれいにし、適切な衣服をまとうことの意義をふまえてこれらの援助について学ぶ。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 人間にとって運動活動することの意義とエニグムを理解し、アセメントの視点が理解できる。	1) 活動と運動の意義 2) 運動・活動アセメント	(1) 活動と運動の意義 運動と活動のちがい、活動；生産活動（仕事）とレクリエーション活動 (2) 運動・活動のニードとニードに影響する要因 (3) 運動・活動のメカニズム、運動をつかさどる器官、姿勢と生理学的影響 日常生活動作 (ADL) と手段的日常生活動作 (IADL)	講義 グループワーク
6	2. 安全で安楽な体位について理解し、体位保持と体位変換の援助方法が理解できる。	1) 姿勢と体位 2) ボディメカニクス 3) 体位変換の援助技術	(1) よい姿勢・良肢位・基本体位と特殊体位、生活の中でみられる姿勢 (2) 対象者のボディメカニクス、看護者のボディメカニクスの基本 (3) 同一体位による影響 (4) 体位変換・体位保持の目的・方法・実際	講義 グループワーク 演習
4	3. 安全・安楽・自立を考慮した移動、移乗・移送の援助方法が理解できる。	1) 移動の援助技術 2) 移乗・移送の援助技術	(1) 移動=歩行の援助 (2) 移動を支える用具(杖)の種類と使用法 (3) 杖歩行の援助 (4) 移乗・移送用具(車椅子・ストレッチャー)の種類と使用法 (5) 移乗・移送援助の実際 ①車椅子を用いる場合 ②ストレッチャーを用いる場合	講義 グループワーク 演習
2	4. 人間にとって眠ること、休息することの意義とその援助が理解できる。	1) 睡眠・休息の意義 2) 睡眠と休息のアセメント 3) 睡眠と休息を促す援助	(1) 睡眠・休息の意義 (2) 睡眠・休息のニード (3) 睡眠の生理学的メカニズム (4) 生体リズムと日内変動 (5) 睡眠の種類と睡眠障害 (6) 睡眠・休息の援助－リラクゼーション	講義 グループワーク
	5. 療養生活におけるレクリエーションの意義とその援助について理解できる	1) レクリエーションの意義と必要性 2) レクリエーションの援助	(1) レクリエーション・遊びの意義と必要性 (2) レクリエーションのニードとニードに影響する要因 (3) レクリエーションの種類と援助方法	講義 グループワーク
2	6. 人間にとっての衣生活、衣生活を整える意義とその援助について理解できる	1) 衣服を用いることの意義 2) 衣服の選択	(1) 衣のニードとニードを阻害する因子、及びアセメントの視点 (2) 衣服を用いることの意義 (3) 病衣・寝衣・履物の選択のアセメント	講義

	7. 寝衣交換の援助について理解できる	1) 寝衣交換の方法	(1) 寝衣交換の基本 ①和式寝衣の交換の方法 ②パジャマの交換の方法	講義 グループワーク
2	8. 人間にとって体を清潔に保つことの意義と必要性が理解できる	1) 清潔の意義 2) 皮膚・粘膜の生理的役割と援助の必要性	(1) 清潔のニードとニードを阻害する因子、及びアセスメントの視点 (2) 身体を清潔にする方法と留意点 (3) 洗うこと・拭くこと 全身・部分 湯の効果	講義
10	9. 清潔の援助方法が理解できる	1) 入浴・シャワー浴の援助方法 2) 全身清拭の援助方法 3) 頭皮・頭髪の清潔 洗髪、拭髪、整髪 4) 部分浴・部分ケアの方法 5) 陰部洗浄の方法 口腔ケアの方法	(1) 入浴・シャワー浴の目的・作用・適応・禁忌 (2) 入浴・シャワー浴・特殊浴の援助方法 (1) 全身清拭の目的・作用 (2) 全身清拭の援助方法 (1) 頭皮・頭髪の特徴と清潔の必要性 (2) 洗髪 (3) 拭髪・整髪 (1) 部分ケア(部分浴)の選択の考え方； 目的・作用 - 手浴・足浴 洗面・ひげ剃り 目・耳・鼻・爪 (2) 足部・手浴の援助方法 (1) 陰部洗浄の目的 (2) 陰部洗浄の援助方法 (3) 口腔ケアの目的 (4) 口腔ケアの援助方法 (歯磨き・含嗽、義歯ケア)	講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習
2	試験		筆記試験・技術確認	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術II 基礎看護学③ 医学書院 菱沼典子 著 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 V.ヘンダーソン 著 湯槻他 訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
参考文献	秋葉公子 他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーヴェルヒロカワ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学する一看護に活かす物理学 学研メディカル秀潤社 時実利彦 著 人間であること 岩波新書 小寺豊彦 著 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 昭林社			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術確認、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野 I	科目名	臨床看護総論	担当講師	小谷和大・田中佳代子 才木寿治
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

臨床における看護実践では、看護を必要としているあらゆる年齢層の人たちの健康段階、訴える症状、治療・処置に応じて、さまざまな知識・技術を実際に活用しなければならない。これら発達段階、健康段階、症状、治療・処置は各人に応じた看護を考えていくときの基本的な切り口となるので、その考え方・見かたと共に、本科目は看護の実際や実践を考えていく基本となる既習の知識・技術を統合させ、活用するプロセスを学ぶことをねらいとする。

内容は、『健康段階別看護の概要』『症状別看護』『治療処置別看護』の構成とし、それぞれの看護の概要を学ぶ。特に症状別の看護では、数多くある症状の中でも臨床でよく遭遇する症状や、特に知識として持っておく必要があるとされている症状を取り上げて、それら症状に対する看護の基本を習得するものとする。

時間	単元目標	主題	内容	指導方法
2	1. 臨床看護における看護師の役割が理解できる 2. 臨床看護における対象が理解できる	1) 総論 2) 健康段階別看護	(1) 対象理解の視点の考え方 発達段階と健康生活の特徴 (2) 経過別看護の考え方 急性期・回復期、慢性期、リハビリテーション期、終末期の定義と看護の特徴	講義
18	3. 主要な症状を示す対象者への看護の考え方 が理解できる 4. 治療・処置を受ける対象者の看護の考え方 が理解できる	1) 呼吸に関連する症状 を示す対象への看護 2) 循環に関連する症状 を示す対象への看護 3) 安楽に関連する症状 を示す対象者への看護の実際 4) 治療・処置別の看護 の概要	(1) 呼吸困難の定義 (2) 呼吸困難に伴う症状 (3) 呼吸状態の観察・アセスメント (4) 呼吸困難に対する援助 ① 呼吸運動の促進 ② 気道净化 ③ 酸素投与 - 酸素吸入療法の基礎知識と援助の実際 (1) 循環障害に伴う症状 (2) 循環障害の観察・アセスメント (3) 循環障害への援助 ① 血液循環を促進するための援助 ② 心臓の負荷を軽減するための援助 (1) 身体的安楽の阻害に関連する症状 ① 痛み ② 発熱 (2) 各症状のメカニズム・アセスメント (3) 症状のある対象の援助 ① 痛みのある対象への援助 ② 発熱のある対象への援助 (1) 治療・処置別看護の考え方	講義 グループ 討議 技術演習 講義 グループ 討議 講義 グループ 討議 講義 グループ 討議 講義

8	試験	2) 輸液療法を受ける対象者への看護	(1) 輸液療法とは (2) 輸液療法を受ける対象者への看護	講義 グループ討議 講義 講義 演習 講義 演習
		3) 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護	(1) 創傷とは (2) 創傷の処置と看護	
		4) 医療機器の原理と実際	(1) 医療機器とは (2) 医療機器の安全管理 (3) 各種医療機器の原理と使用目的 (4) 各種医療機器の取り扱い	
		5) 吸引の技術	(1) 吸引の基礎知識（口腔・鼻腔・気管内吸引） (2) 吸引の実際 ① 口腔・鼻腔からの一時的吸引の方法 ② 体位の工夫	
			筆記試験	
テキスト	系統看護学講座	専門分野 I 臨床看護学総論	基礎看護学④	医学書院
	系統看護学講座	専門分野 I 基礎看護技術II	基礎看護学③	医学書院
	竹尾恵子編	医療安全と感染管理をふまえた	看護技術プラクティス第4版	学研メディカル秀潤社
	高木永子監修	看護過程に沿った対症看護	病態生理と看護のポイント第5版	学研メディカル秀潤社
	秋葉公子他著	看護過程を使ったハンダーソン看護論の実践		ヌーヴェルヒロカワ
参考文献	ナーシング・キャンバス 2021	学研メディカル秀潤社		
	系統看護学講座	専門分野 I 基礎看護技術 I	基礎看護学②	医学書院
	系統看護学講座	専門分野 II 成人看護学総論	成人看護学①	医学書院
	系統看護学講座	専門分野 II 成人看護学②	呼吸器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野 II 成人看護学③	循環器	医学書院
評価方法	山内豊明	フィジカルアセスメントガイドブック		医学書院
	小寺豊彦	楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理		昭林社